

第3回第5期第3回 協働のまちづくり促進委員会
協働のマニュアル検討部会(5/31)実施報告

1 日時 令和5年(2023年)5月31日(水)18:30~19:50

2 場所 宝塚市役所 第二庁舎 会議室 A・B

3 出席者 久会長、加藤委員、檜垣委員、足立委員、中山委員、藤本委員、前園委員、
平原委員、山本委員、上西委員、川上委員、喜多河委員、番庄委員 計13名
事務局(加藤、浅井、新城、岡田、中川、玉田)

4 議論のまとめ

第5期第1・2回の協働のマニュアル検討部会の振り返りを行った後、次期に引き継ぐ事項について意見交換を行った。概要は以下のとおり。

- (1) 事務局から、マニュアルの検証の進め方の一案として、協働の事例の収集及び検証をとおして、うまくいった点やうまくいかなかった点などを抽出・分析し、マニュアルの検証及び事例集の更新につなげていくことについて、提案があった。
- (2) マニュアル(及び事例集)の内容について、以下のような意見があった。
 - ア マニュアル自体は非常に常識的なつくりになっている。ある程度うまくできている。
 - イ 市民提案型だけでなく、行政提案型の事例も取り上げてほしい。
 - ウ 1対1の協働の事例だけでなく、協働の取組が波及して3団体・4団体と参加団体が増えていったような事例も取り上げてほしい。
 - エ 市民あるいは市職員が一人ひとり手に取って、多くの人が活用できるマニュアルにしなければならない。
 - オ 担い手を育てるためのコツや対応(禁句集など)をマニュアル化すれば、担い手をどうやって育てるかというマニュアルもつくることができる。
- (3) 次期会議におけるマニュアルの検証の進め方について、以下のような意見があった。
 - ア 「マニュアル」という言葉一つでも、人によって想像する内容のレベルが異なることから、最初の段階でマニュアルの内容やレベルについての認識の擦り合わせを図ってから議論を進めてほしい。
 - イ 現場の声を上手く拾い、ニーズに合わせてながら作ってほしい。
 - ウ 協働には多様な形態(有償・無償も含めて)や背景があり、立場が異なるということを認識しながら議論してほしい。